

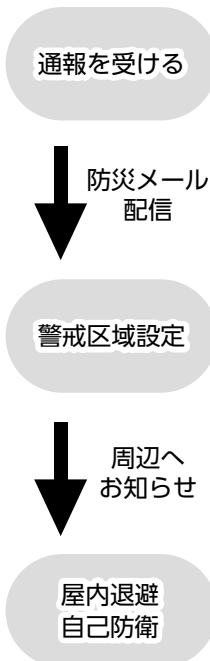
身近にある危険 クマから身を守るために

ツキノワグマ市街地等出沒対応マニュアル

近年、市街地付近におけるクマの目撃が年々増加しており、クマは人の生活圏に入り込んでいます。昨年は、市街地に出沒したツキノワグマによる人身事故が2件発生しています。

このことから、市街地など、身近な場所にクマが出沒したときに、市をはじめ対応にあたる関係機関などの行動指針を定めた「鹿角市ツキノワグマ市街地等出沒対応マニュアル」を今年3月に策定しました。

市街地でクマが目撃された場合の関係機関の対応



警戒区域の設定

状況に応じて、クマによる人身事故が発生する危険性が極めて高い範囲を「警戒区域」に設定します。警戒区域は、主に自治会などの範囲で設定します。



周辺へのお知らせ

- ・メール配信システムや広報車、ラジオ放送、連絡網などで状況をお知らせ。
- ・区域内の公共施設の管理者や自治会長へ緊急連絡。
- ・人身事故を防ぐために
- ・車両と人の移動を一時制限。
- ・クマの動きに合わせて警戒区域を随時設定。

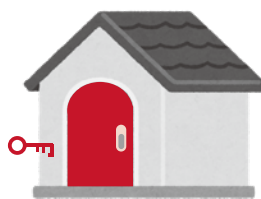
日頃から備えましょう

身の回りや行動範囲の点検

周囲に、桜や桑、栗、どんぐりなど、クマの餌となる実がなる木がないか点検しましょう。また、しげみや木から距離を取って歩くことができるか確認し、危険が潜む場所を把握しましょう。

通り道になりやすい場所

川沿い、茂み、暗がり、誘引物までの直線距離など
逃げ込みやすい場所
木の上、暗がり、藪、林の中、小屋など



クマは、狭い暗がりに逃げ込む傾向があります。小屋などは、出入口を塞いで侵入できないようにしましょう。足跡や痕跡がある時は、再度出沒されないよう直に対策が必要です。



散策路で栗の実を拾って食べるクマ

誘引物を徹底的に除去

廃棄野菜や油類、揮発性の薬剤、ぬかや漬物、味噌などの発酵物はクマを呼び寄せます。廃棄物などは、匂いが全く出ないように適切に管理するか、必要がない場合は処分してください。

出沒情報を入手して活用

クマは、時期により居場所の傾向が変わります。出沒情報などにより、時期ごとに出やすい場所や時間帯などを把握するようにしましょう。

緊急時の行動

- ・現場には決して近づかない。
- ・屋内や車内に入り、出入口を封鎖・施錠する。
- ・クマが襲いかかってきた時は、防衛姿勢をとる。

クマによる外傷は、顔や額、頭の側面に負うことが多いです。クマが襲い掛かってきた時は、両腕で顔を囲うように構えて背を丸め、顔面と腹部を守ります。地面にうつ伏せになるときは、首の後ろで手を組んで首を守ります。



屋内退避の注意点

- ・透明なガラス戸は、板やカーテンなどで塞ぎ、室内が見えないようにする。
- ・窓際や壁際からなるべく距離をとる。
- ・防災メール・ラジオ放送などが受信できるようにする。



地域ぐるみで対策

誘引物の除去や廃棄物の処分、共有地の刈り払い、耕作放棄地の解消など、地域の課題と出沒対策の課題が重なることが多くあります。

一人一人の対策に加え、自治会など地域全体で出沒対策を行うと非常に効果的です。

出沒マップの作成

集落内の出沒箇所や被害発生箇所の情報を持ちより、自治会内で共有します。

集落環境診断の実施

専門家を招き、クマの生態や被害の要因について学び、出沒の危険性や対策の必要性についての意識を共有します。

出沒対策に関するワークショップ

具体的な対策について、専門家や県・市担当者と共にワークショップを行い、行政への要望や必要な対策の実施方法について話し合います。

取り決めに基じた対策の実施と実績の検証

ワークショップで取り決めた対策を実施し、期間終了後に実績を振り返ります。新たな意見や改善点を翌年以降の対策につなげます。

自治会などでの取り組みに対する支援

農林課

クマの生態や出沒対策などに関する勉強会の開催

農林課・県自然保護課

クマ対策への合意形成のためのワークショップの開催
秋田県水と緑の森づくり税事業を活用したクマ対策
クマ対策のための緩衝帯の設置と事業実施活動支援

農林課 農地林務班
☎ 30・0246



昨年11月には、大湯の市街地にクマが出沒し、3人が次々に襲われました。

クマは突然飛び出てくることがあります。